

立山

nagasaki
higashi
information



よき世を創る若人を育てるために
長崎県立長崎東中学校・長崎東高等学校

長崎市立山5丁目13番1号

TEL 095-821-4642 / FAX 095-823-5472

URL <http://www.news.ed.jp/higashi-h/>

長崎東通信 第347号 令和8年3月24日発行

高3

78回生 卒業式

3月2日（月）、高校の第78回卒業証書授与式が挙行されました。あいにくの雨天となり、また月曜日の実施にも関わらず多くの保護者ならびに来賓の皆様にご出席いただき、誠にありがとうございました。送辞や答辞においては、実体験を例に挙げ、主体性・多様性・協働性を身に付けてこられたことや、それを活かして今後の生活を送っていくという決意が感じられる素晴らしい内容でした。自分が経験したからこそ、人に感動を与えられるのだと改めて実感しました。その後のホームルームでも、保護者に向けて思い思いの方法で感謝を伝え、時に涙し、時に笑い合い、78回生らしい時間となりました。

今後の人生もいい顔して、ちょっと我慢して、思いやりをもって、一生懸命がんばってくれることを期待しています。



中3

20回生 卒業式

3月13日（金）、第20回卒業証書授与式が挙行され、一人ひとりが担任の呼名に大きな声で返事をし、学校長より卒業証書を受け取りました。卒業生代表の山本二三佳さんは答辞の中で3年間の挑戦で得た成長と絆を振り返り、

恩師や家族への謝辞を述べるとともに、抱いた夢を育み未来へ進む決意を表明しました。全校生徒で歌った校歌と、今年20回生の希望で取り入れていただいた式歌Unlimitedはとても感動的でした。その後の最後のLHRでは、後輩のみなさんにきれいに飾り付けていただいた教室で、一人ひとりがそれぞれの思いや感謝を伝え、泣いたり笑ったり、素敵な時間を過ごしました。

生徒たちが、この3年間で、校長先生の式辞にあったように、優しく、そして大きく成長できたのも、保護者の皆様の様々な面でのご協力のおかげです。本当にありがとうございました。これから20回生の皆さんにたくさんのお幸せが訪れますように。



ニューヨークフィールドワーク

令和8年3月4日～9日、本校企画の「ニューヨーク探究スタディツアー」を実施しました。長崎東高校では、本ツアーを含め、ハワイやベトナム、沖縄や広島、東京大学、国連大学などで高度な学びを体験する多様なスタディツアーを実施しています。

今回のニューヨーク探究スタディツアーでは、国連本部訪問、9.11メモリアル、移民博物館、テネメントミュージアムで研修を実施しました。6日には、長崎東高校の生徒がニューヨークの国連本部を訪問。連携校である広島市立舟入高校も参加し、被爆地の高校生とともに学びました。ミーティングではUnited Nations Office for Disarmament Affairs（国連軍縮部）の皆さまにご対応いただき、核軍縮や小型武器問題、若者と平和について意見交換を行いました。

また、本校の探究プロジェクト“The Authentic Colors of Nagasaki”について発表しました。このプロジェクトは、本校の探究活動の中で取り組んできた研究です。戦前の長崎の白黒写真をAIでカラー化し、被爆者や研究者の助言を受けながら、当時の記憶や証言をもとに“Authentic Colors（本物の色）”を探究してきました。の成果として制作した写真集を、中満泉 国連軍縮担当上級代表・事務次長のチームにお渡ししました。写真集は国際連合軍縮部内で共有され、国連ホームページへの掲載も予定されています。生徒たちは生涯の財産となる大きな経験を得ることができました。



大会等の結果

令和7年度 中3表彰生徒

◎長崎東中「東の光」表彰
3年3組 中田 結菜

◎優良卒業児童生徒表彰
3年1組 瀧上 美羽

〈中学〉

- ◆第16回まつうら音楽コンクール
中学校部門ソロの部 金賞 3年1組 坂田 美月 3年3組 木原 環
- ◆令和7年度交通安全啓発図画コンクール
優秀賞 3年2組 平松 亜子
入選 3年1組 山脇 慶乃

〈高校〉

- ◆第35回KTN杯争奪長崎県団体卓球選手権大会
女子団体 優勝
- ◆第51回九州アンサンブルコンテスト
木管三重奏 金賞
- ◆第16回まつうら音楽コンクール
高等学校部門ソロの部 優秀賞・金賞 2年5組 雪澤 理世
銀賞 2年2組 桑田 汐璃
- ◆第21回NCCふるさとCM大賞
ユニーク賞 「長崎にゃんだふるロード」

各学年より（学年主任からのメッセージ）

中学1年生

少し大きめの制服に身を包み、不安と期待を胸に入学してきた日のことを覚えていますか。あれから1年。皆さんは、心も体も大きく成長しました。その一つ一つの経験が、確実に皆さんを強くしています。

4月からは2年生。後輩ができます。皆さんは「先輩」になります。先輩とは、特別な人のことではありません。「自分の行動に責任を持てる人」のことです。今の自分より一歩前へ。今の自分より少しだけ強く。そんな2年生になってほしいと願っています。

東中22回生学年スローガン「Green Grit」継続です…。（中1学年主任 井手宏克）

高校1年生

今年の学年目標は『ちょうせん』でしたが、自分に合った『ちょうせん』に取り組むことができましたでしょうか。思いやりがあり、温かみのある80回生になるために【筋を通すこと】、【自分の目で見て、耳で聞いて、頭で考えること】、【人間力を高めるための努力を怠らないこと】、実践できただでしょうか。優しさがにじみ出る言動や困っている人に寄り添う姿に、見ているこちらが胸を打たれる場面を何度も見かけました。まだまだ伸びしろのある80回生です。来年度も、自分を大切にすることを忘れることなく集団で成長していきましょう。（高1学年主任 田中貴章）

中学2年生

この1年間、しま体験修学旅行や職場体験など、学校を飛び出して生徒たちの学びの舞台は大きく広がりました。広い社会の中での豊かな体験の数々、きっと知識だけにとどまらない「人の土台」が成長した一年になったことでしょう。毎日交わす挨拶でも、明るい笑顔や元気な声にほっこりする場面が増えました。

4月からは最高学年。いよいよ「ひがし」を引っ張る立場になります。もうすぐ体育祭、リーダーとしてどんな姿を見せてくれるのか今からとても楽しみです。持ち前の明るさや優しさをもっともって発揮して、卒業の日まで全力で頑張れ21回生！（中2学年主任 上戸秀龍）

高校2年生

今年は「Positive（明るく強くわれゆかむ）」をテーマに、多くの挑戦と成長を重ねてきました。探究学習や進路学習を通して自分自身と真摯に向き合い、将来を深く考えた時間は大きな財産です。海外修学旅行では世界とつながり、異文化を受け入れる柔軟さと“東らしさ”を感じさせる姿がありました。身に付けた「自分を超越る力」と協働性を土台に、来年はさらなる飛躍の年にしてほしいと願っています。学年テーマ「Passion Positive and Patient」を胸に、情熱と前向きさ、そして忍耐強さ（やり抜く精神・理想の道をわれゆかむ）をもって歩み続けましょう。

（高2学年主任 猿渡雄介）

転退任の教職員

○退職

【高校】

原口 幸義

福野 史人（再任用として長崎東高常勤講師へ）

中島 哲也（再任用として長崎西高常勤講師へ）

【事務】

松崎 耕士

○転任（転出先）

【中学】

兼平 嘉信（長崎市立桜馬場中）

丸田 修也（西陵高）

入里 美穂（島原高）

池下 昭洋（長崎東高）

雨宮 照代（諫早市立小野中）

【高校】

永江 真（上五島高）

百枝 貴志（西陵高）

樋口 裕次（上対馬高）

松本 辰哉（諫早高）

岩岡 麻衣子（宇久高）

【事務】

水口 真理子（対馬高）

お世話になりました。

主な行事 4月

校長より

日 曜	主な行事
1 水	学校開放（高3、～4日）
6 月	第2回入学予定者オリエンテーション
8 水	新任式・始業式・入学式 部活動停止（高）
9 木	東志行（中1・高1、～13日） 課題テスト（高2・3、～13日）
10 金	個人写真撮影（中1）
11 土	第1回学力推移調査（中2・3） 学校開放（高3）
13 月	45分授業（～5/1） 面談週間（高、～5/1）
14 火	歓迎遠足
15 水	専門委員会（中）
16 木	部活動編制 内科検診（中1）
17 金	尿検査（1次） 1学期学級委員任命式（中） 内科検診（高1）
18 土	学校開放（高3）
20 月	全国学力調査（中3）
21 火	心臓検診（中1・高1） 結核検診（高1）
23 木	長崎東安全の日 尿検査1次予備日 県学力調査（中2、国数） 全国学力調査（中3、国数）
24 金	体育祭総合練習 ブロック演技リハーサル
25 土	学校開放（高3）
27 月	体育祭会場設営 ブロック演技リハーサル
28 火	立山移転50周年記念体育祭

探究

校長 田川 耕太郎

「探究といえば東」と言われるほど、探究活動については、その質の深まりがみられるようになってきました。

先日、九州大学で開催された探究の全国大会「中高生探究フォーラム」において、高2～6の内村心花さんが最優秀賞を受賞しました。全国から約1500人が参加し、予選を突破した80チームの頂点に立つという、たいへん価値ある成果です。テーマは「マイクロトマトの特性を活用したホンジュラスの子どもたちの栄養改善」。審査員からは、高校生の探究が世界の子どもたちに寄与し始めている点を高く評価され、「全国の中高生の手本となる真の探究」と称賛されました。

また、長崎大学で行われた「グローバル探究カップ」には、1年生4名のチームが出場しました。テーマは簡潔にいうと「海ごみ問題の解決法」ですが、その本質は環境問題にとどまらず、「人はどのような働きかけで自発的にボランティアへ踏み出すのか」という、人の行動原理を探る研究でした。いかにして人の意識と行動を変容させていくかという視点は、これからの社会をよりよくしていく鍵となるのではないかと感じました。

中学生も探究的な学びにチャレンジしています。中1～1の授業を覗くと「紙の建築家コンテスト」が行われていました。4～5人のチームで7枚の紙を使い、どれだけの重さに耐える構造物をつくれるかを競う取り組みです。生徒たちは経験をもとに、意見を交わしながら試行錯誤を重ねていました。1,000gを超える分銅を支える構造をつくり上げた班もあり、教室には歓声が沸きました。生徒の振り返りシートには「仲間と協力してよりよいものをつくらうと頑張った。うまくいったときはとてもうれしかった」といった率直な言葉が書かれていました。課題に向き合い、対話し、試し、振り返る一その営みこそがまさに探究そのものであり、今の時代に必要とされる学びです。

本校では、学年や教科を問わず、日常の学びの中に「問い、考え、深める」姿が根つき始めています。社会に出ると課題解決の連続です。「なぜ」「どうすれば」といった視点を大切にしながら、楽しい探究の文化を育ててほしいと考えています。